

成果指標				
成果指標	伊予市における観光入り込み客数			
指標設定の考え方	観光関係団体の活動により、伊予市への観光入り込み客数の増加。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標26年度
目 標	1600000	1920000	2028000	0
実 績	1918694	2027577	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>本年度は、観光協会の事務局体制を直し、正規職員1名、補助職員1名、臨時職員1名の3人体制となった。伊予市の観光情報の収集及び発信に努めるとともに、イベントの運営等について、観光協会が自立して、運営できるように指導していく。</p> <p>ほたる保存会の会員も年齢層が高くなってきており、今後の活動の在り方について、調査研究していく必要がある。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>自己の課題認識のとおり、観光協会事務局は新たな体制で事業展開を行ってきたが、今後の伊予市観光振興の推進のためには、地元住民や来場者等の意見等を基に内容や運営方法などを再検証しイベントのあり方を常に検証する必要がある、市としても連携を深めてあらゆる方法で支援していく必要がある。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	一次評価者の課題認識に加えて、観光協会そのものが未だに行政頼りの傾向が否めない。意識改革を行い主体性を持って、各種イベントや自主事業等の取組みに務める必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。